

# 令和元年度 家庭教育オピニオンリーダー研修④ 実施報告

実施日：令和元年9月25日（水）

- 事例発表「家庭教育オピニオンリーダーの活動」
- 座談会「先輩オピニオンリーダーに聞く」

栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会 会長 松岡あゆみ 氏  
同 研修部長・前上三川支部長 佐藤 広子 氏



本研修名にもなっている「家庭教育オピニオンリーダー」について、会長の松岡さんからは連合会の構成や委託事業等の取組内容等の説明をいただきました。研修部長の佐藤さんからは、連合会が県域で行っている研修について、そして地域に根ざした家庭教育支援活動事例として上三川支部の活動について、発表していただきました。

事例発表に先立ち、受講者が持っている家庭教育支援やオピニオンリーダーについてのイメージを班で共有し合いました。その後、松岡さん・佐藤さんからお話を聞いたことで、受講者各自が家庭教育支援やオピニオンリーダーについての理解を深められたようです。

後半の座談会では、前半の発表を受けて感じたことや考えたことなどについて、オピニオンリーダー連合会のお二人に答えていただきました。どのような気持ちをもって活動に当たっているか、連合会として感じている課題はどのようなことかなど、受講者からの様々な意見に対してとても丁寧に答えてくださいました。受講者は家庭教育オピニオンリーダーについて、そしてその活動について、理解を深めることができたようです。



## ○ 演習「活動を支援するコミュニケーション」

はじめに、伝える側と受け取る側の認識のズレについて、ワークをとおして確認しました。その後、自己紹介でのちょっとした工夫について、班で実際に自己紹介を行いながらその効果を確認し合いました。人権の視点を取り入れたワークでは、絵に色を塗る活動をしながら、持ち物や服装の色、髪や肌の色など、日常生活における人権感覚の大切さを、体験をとおして再認識しました。最後に行った協働を促すワークでは、持っている情報を班のメンバー同士で共有し合いながら、情報と情報をつなぎ合わせて答えを導き出す活動に取り組みしました。

活動に取り組む際には、参加者同士の心地よい人間関係が重要になること、そういった関係を築くには、前段階として緊張を解きほぐす活動が大切であることなどを、受講者は感じる事ができたようでした。



## ☆受講者の声（アンケートから）

- ・家庭教育オピニオンリーダーの活動について、あまりよく理解していませんでしたが、今回深く学ぶことができ、とても勉強になりました。
- ・オピニオンリーダー連合会会長の「〇〇と一緒に」のキーワードが、団体の在り方を象徴したお言葉だったと思います。
- ・たくさんの人の意見が聞けて、いつも勉強になります。自分の思いをきちんと表現できる人たちがたくさんいて、すばらしいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで  
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp